

# 施策連携プロジェクト

## テーマ 1：バイオマス利活用プロジェクト（仮）

想定される施策	地球環境の保全、資源循環型社会の形成、農業・林業の振興
テーマの背景・現状	<p>○平成 27 年度、国の 7 府省による「バイオマス産業都市」の選定を受けた。</p> <p>○平成 28 年に「南丹市バイオマス活用推進計画」を策定し、資源循環を通じた地域の活性化が求められている。</p> <p>○庁内ヒアリングでは、バイオマスの利活用については、庁内各部署が別々に担当していて、庁内横断的な推進体制の構築が必要だという意見が出た。</p> <p>○バイオマスの利用状況については、家畜排せつ物はすべてたい肥利用され、食品廃棄物はメタン発酵処理やバイオディーゼル燃料化を進めている。しかし、木質バイオマスについては、多くが未利用な状況となっている（平成 26 年循環利用率：7％）。</p> <p>○美山町森林組合では、木質バイオマスポイラを設置した宿泊施設に木質チップを年間供給している。また、NPO 法人美山里山舎は薪ストーブを開発し（製造は地元の鉄工所）、普及促進に努めるとともに、小水力発電施設の設置を検討している。</p>
論点	<p>○庁内横断的な推進体制をどう構築し、市全域でバイオマスの利活用をどう進めていけばいいのか？</p> <p>○特に、南丹市の約 88％を占める豊かな森林を活用し、市全域で木質バイオマスの利活用をどう広げていくのがいいのか？</p> <p>○木質バイオマスの利活用によって、どう林業者への利益の確保や地域の活性化につなげていけるのか？</p> <p>○バイオマスを、さらに観光振興や環境学習などに生かしていくことが可能か？</p>
関連計画	南丹市バイオマス活用推進計画、南丹市バイオマス産業都市構想など
担当課などの課題認識（庁内ヒアリングより）	<p><b>●庁内横断体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境についての計画なので環境部門が所管している。林業や市民との連携などもあるが、他の課との連携が少ないのが課題。</li> <li>・関連分野が多岐にわたっていて、推進体制の再構築が必要。</li> <li>・資源の集団回収など、各集落から PTA などの団体を登録してもらい、実施している。</li> <li>・生ごみ処理機への補助も行っているが、田舎は畑に使われることも多く、また高齢者や学生などに生ごみ処理についての指導も必要と思われる。</li> </ul> <p><b>●森林資源、木質バイオマスの活用拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス産業都市構想との連携を進めていくことが必要。</li> <li>・バイオマスは市の大きな地域資源であり、さらに有効活用すべきである。</li> <li>・林業は 100 年の森づくりの事業なので、森林組合と連携しながら山づくりを行っていききたい。ただ、事業は旧町ごとに取組が違って、森林組合は一つにならない。</li> <li>・事業のほとんどは森林組合のほうで実施している。森林経営計画については、園部町・八木町では計画が立っていない。間伐が進んでいないので、府と連携して実施したいが、森林所有者が確定しないと計画が立てられない状況にある。</li> </ul> <p><b>●林業者への利益の確保や地域の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むら・ひと・しごと創生事業は、学校区を対象としている。山の入口から出口まですべて仕事にしてしまう。道をつくり、木を切り出し、他とは違う価値観で売り出す。冬場はチップーをつくり、道はマウンテンバイクのコースなど、ありとあらゆる活用を考え少しずつ仕事を起こしていく。</li> </ul> <p><b>●観光振興や環境学習などに生かしていくこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの有効活用など、子どもを対象とした環境学習などの取組を進めていく。</li> </ul>

関連する地域団体・市民団体等（市民ヒアリングより）	<p><b>○南丹市の森林を考える会</b>：旧日吉町での活動が母体。森林、林業関係者がメンバー。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業を、産業のひとつとして、とらえていきたい。農業に比べると行政の体制も小さい。</li> <li>・林業は労働条件が厳しい。賃金も不安定。そうなると、後継者が育たない。</li> </ul> <p><b>○芦生自然学校</b>：「芦生で学ぶ、守る、体験する」、「芦生の地域の保全」の 2 つの活動を軸に活動を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学び」と「保全」のプログラムがある。「学び」では、子ども対象に四季を通じて月 1 回程度の外遊び、鳥や鹿をさばく、生活体験を行っている。</li> <li>・芦生の自然環境、森の管理をしなくなったので荒れてきている。</li> <li>・高齢化率が高くなっている。これまでの技が失われつつある。</li> <li>・専門性がある個人や団体をつなぎ、プラットフォームをつくっていきたい。</li> </ul> <p><b>○京都銀行園部支店</b>：企業の CSR 活動を通じて地域貢献を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都銀行の CSR 活動として、次世代に森林を引き継いでいくための取組がある。</li> <li>・地域経済の動向について、南丹市は社会福祉、医療関係は充実していると思われる。働いている人も多い。産業としては、農業・畜産もさかん（美山牛乳など）。畜産が盛んなところは地域の活性化に生かせるのではないか。</li> <li>・農林水産、畜産、森林景観、スポーツ、教育、医療・福祉などが南丹市として産業の中心になれると思われる。産業内のつなぎ、横断的な産業間のネットワークづくりが必要。</li> </ul>
第 1 回ワーキングで出された意見（概要）	<p><b>●現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売よりもメンテナンスに費用が掛かる。</li> <li>・ペレットストーブ、あまり普及していない。</li> <li>・バイオマスの機械もストーブも外国製。</li> <li>・木質バイオマスはコストが高い。</li> </ul> <p><b>●バイオマスの啓発、普及へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマスのメリットなど、庁内・市民と共有していくことが必要。</li> <li>・バイオマスからの恩恵を広く受けられるようにしていくこと。</li> <li>・薪ストーブの補助制度をもっと利用してもらおう。補助率なども検討。</li> <li>・木の駅プロジェクト。間伐材と商品券の交換などの先進事例もある。</li> </ul> <p><b>●設備導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チップボイラーの導入。スプリングスひよしなど。</li> <li>・南丹市域の公的な施設には薪ストーブを設置する。</li> <li>・各町に熱源施設を導入。</li> </ul> <p><b>●林業との関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマスの活用が盛んになれば、低迷する林業政策に光が見える？</li> <li>・林業の最終消費は木材。木材価格はピーク時の 1/5。</li> </ul> <p><b>●ゴミ、環境とのかかわり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹市ではごみの分別が徹底されている。市民意識は高い。</li> <li>・ごみから新しいエネルギーを開発できないか。</li> </ul>
想定される課	農政課、農林整備課、市民環境課など

## テーマ2:南丹っ子育成プロジェクト(仮)

想定される施策	子育て支援の充実、商業の振興、家庭や地域の教育力の向上、学校教育の充実、青少年の健全育成
テーマの背景・現状	<p>○コミュニティスクールや学校支援地域本部事業の取組など、学校・家庭・地域が連携しつつ、さらに事業者や大学等を巻き込んだ、南丹市の特色を生かした教育が求められている。</p> <p>○学校と地域等をつなぐコーディネーターの役割を確立し、関わり方を明確にすることも検討していく必要がある。</p> <p>○給食等において、南丹市の豊かな農作物を食材として活用することなども重要なポイントであると考えられる。</p> <p>○最近では、地域全体で次代を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生するため、「地域学校協働本部」を全国に整備することが提言されている。</p> <p>○大学については、地域再生の核としてのあり方が見直されており、「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」が全国で進められている。</p>
論点	<p>○コミュニティスクールや学校支援地域本部事業の取組を中心に、どう学校・家庭・地域が連携した教育を構築していくべきか？</p> <p>○さらに市内の事業者や大学等を巻き込んで、どう南丹市の特色を生かした教育ビジョンを創りあげていくべきか？</p>
関連計画	南丹市教育大綱ー南丹市教育振興基本計画ー、南丹市子ども・子育て支援事業計画など
担当課などの課題認識(庁内ヒアリングより)	<p>●<b>学校・家庭・地域が連携した教育の構築に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールづくりをめざし、全校に学校運営協議会を設置している。</li> <li>・学校支援地域本部事業の一環として、地域のボランティアが学校を支援している。今後はより効果的な取組にしていくため、学校の求めと地域の力をマッチングさせていくことが必要となっている。</li> <li>・コミュニティスクール事業(小学校)は、地域の人の戸惑いもあった。今までは学校という拠点があったが、統合により学校の在り方をかえつつ、地域の学校としての意識づけをはかり、子供と一緒に地域を育てていくどんな学校にしたいか、子供を育てたいかを会議をする。学校運営協議会で学校・保護者・地域の人たちで話し合うことが地域づくりになっていくと考えられる。</li> <li>・「教育創造事業」「特色ある学校づくり」などは、学校教員、校長が主体となって、取り組む仕掛け。地域や保護者はまだ巻き込めていない。</li> <li>・弁当の日がある小学校では、地域の人に関わってもらい子どもたちが自分でお弁当を作ってみるなどの取組も進めている。地域から声ももっとであれば、土曜日にそのような日を設けるなど取組が広がっていくと思う。</li> <li>・「地域とともにある学校」はこれからPRしてほしい。学校の文化と地域の文化もイメージが違う。学校側が地域に投げかけて地域の反応が返ってくるような学校を支える仕組みはあるが、一体となって一緒に相談して育てていこうという概念を受け入れるのが難しい風潮がある。</li> <li>・学校支援地域本部事業(中学校)では、「学校のニーズ」と「地域の人を持つ力」をスムーズに結び付けて、学校教育・活動などを支援する事業。中学校ごとに地域が学校を支えていく仕組みづくりを行う。教員OBや学生は授業の支援、地域住民は部活動の指導やサポートを行っている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校ごとに行っているが、学校側に立って、ニーズを地域に伝えていく運営になっている。今後は地域のニーズも学校側に伝えていける仕組みも必要。</li> <li>・学校と地域をつなぐコーディネーターは、地元の人になってもらっているが、今後コーディネーターの役割を確立していくこと、関わり方を明確にしておくことが必要。シルバー人材センターのような人材バンク的な役割だけでなく、中学生が地域に参加するための企画・調整なども担ってもらえればと考えている。</li> <li>・教育委員会、民生委員の福祉事業としての枠組みで、7つの「放課後児童クラブ」を実施。施設・人的サポートの必要性が増大。現在は人材不足が課題。</li> <li>・プログラムの実施については、地域の見守りボランティアの方に協力していただいている。今後地域と保護者の相互の理解に向けた交流も進めていく。</li> <li>・今後高学年を受け入れていくことになるので、支援員の増員とともに、その資質の向上、実施するプログラムの充実に向けた研修も必要。</li> </ul> <p>●<b>市内の事業者や大学等を巻き込んだ、南丹市の特色を生かした教育ビジョンへ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の人や学生たちが活発に活動しているところもあるが、市民と活動家の意識が乖離している部分がある。子どもたちが将来も住み続けられる場所にしたいというのは共通の意識だと思うので、旧町単位でもいいが、連携を進めていきたい。</li> <li>・各学校の調理場は、地産地消を大事にしている。野菜などを作った人の顔が見えるように、招待してお礼の会を開いたりする学校もある。なるべく地域の食材を入れるようにしており、美山ではジビエで有名な鹿肉を取り入れている。</li> <li>・跡継ぎの危機感もあり商工会とは連携が取れつつあり、可能性を期待している。</li> </ul>
関連する地域団体・市民団体等(市民ヒアリングより)	<p>○<b>グローアップ</b>: 子育て支援、子育て世代の観点からできるまちづくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体との連携について、団体のお互いの気質が違うと連携は難しい。連携へのニーズは高いが、うまくやるためには間を取り持つ団体が必要。</li> <li>・高齢者への施策は手厚いが、子ども関連は薄い。年齢や世代をまたいだ事業、地域の世代間をつなぐような事業などができれば。</li> <li>・亀岡市より南丹市の方が子育て支援が充実しているのに人口が流出するのは、家がないことも大きい。もっとPRすべき。教育面で特徴ある施策をしていくべき。</li> </ul> <p>○<b>NPPO 法人発達障害を考える会ぶどうの木</b>: 発達障害の子どもを支援する団体。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治国際鍼灸医療大学の看護科学生や藍野大学の学生などと連携。</li> </ul>
第1回ワーキングで出された意見(概要)	<p>●<b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と学校の連携、現状では学校側が地域に依頼、保護者や地域が受ける側という形が固定化している。学校側からどのように仕掛けていくか、考えること。</li> <li>・新たな教育、地域と学校の連携を担う人材の掘り起こし、確保が必要。</li> </ul> <p>●<b>体制づくりに向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな子どもにしていきたいか、学校・地域・保護者などで共有しておくことが必要。</li> <li>・職員の研修、地域に入っていくことを積極的に評価することが必要。</li> <li>・商工会など、後継者の育成という視点から連携すること。</li> <li>・社協など、地域と防災という視点からの連携も。</li> <li>・今後の方向性に向けて、行政内・地域内でワークショップをしていくことも必要。</li> <li>・大学との連携も必要。</li> </ul>
想定される課	学校教育課、社会教育課、教育総務課、地域振興課、商工観光課など

### テーマ3:「ほんまもん」の南丹ブランドプロジェクト(仮)

想定される施策	観光の振興、農業・林業の振興、工業の振興、商業の振興、協働のまちづくりの推進
テーマの背景・現状	<p>○南丹市は、かやぶきの里やり深などの観光資源のほか、豊かな自然や歴史文化、ブランド京野菜の産地、伝統工芸などのものづくりなど、多様な顔がある。</p> <p>○平成29年3月に「南丹市シティブロモーション戦略」を策定し、南丹市のイメージや認知度、知名度の向上を目指している。</p> <p>○旧町時代から各4町が異なる特徴や魅力を持ち、それぞれの印象が強い本市では、「南丹市」という名前がいまだに対外的に浸透しきれていないことがプロモーション戦略で課題として挙げられている。</p>
論点	<p>○多様な顔のある南丹市で、京都ブランドや丹波ブランドも活用しながら、どう地域ブランドづくりの構築を図ればいいのか？</p> <p>○旧町時代からの4町それぞれの特徴を生かし、魅力をひきあげながら、どう4町が一体となった「南丹ブランド」を確立していくか？</p> <p>○「南丹ブランド」をどう発信すれば、観光客の増加や定住人口の獲得、企業誘致等につなげることができるか？</p>
関連計画	南丹市シティブロモーション戦略、京・南丹ブランドアクションプランなど
担当課などの課題認識（庁内ヒアリングより）	<p>●<b>地域の特色を生かした地域ブランドづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工芸家協会アーティストをバックアップしてスターとなる人材を育成し、注目を浴びるような活動をする。意図的につくるのがはやすい。</li> <li>・環境にやさしい農業を実施すると手間がかかるが、市の農業のアピールにつながる。</li> <li>・京野菜の優良産地であるが、高齢化や担い手不足等により、生産額は減少傾向である。</li> <li>・6次産業化への働きかけで付加価値をつけることが必要である。</li> <li>・1ターン者などの新規就農者に、認定農業者の生産技術やノウハウを継承できるように図りたい。</li> </ul> <p>●<b>4町それぞれの特徴を生かした「南丹ブランド」づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客も美山が多く、南丹市を自分の自治体の名前と思っていない部分もあるので、旧町と一緒に南丹市にも誇りをもってほしい。美山だけ個性が残っている。</li> <li>・南丹ブランドの構築がまだまだだと認識している。南丹市＝京野菜や丹波黒の産地であり、守っていくことが必要ではないか。大ブランドの丹波ブランドを南丹でももっと打ち出していくべきではないかという意見もある。</li> </ul> <p>●<b>「南丹ブランド」の発信に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広告宣伝事業は、大阪府など都市圏にフラグを出しており、継続的に取り組んできている。</li> <li>・加工品にこそ南丹ブランドをつけてはどうか。道の駅の冠になるようなもの。</li> <li>・議会でも認証制度などで差別化を図れないかという話は出ている。</li> <li>・加工グループが市内に点在しているので、道の駅に集結させ連携して販売できないか。</li> <li>・南丹のブランドをわかりやすく伝えていくことが大事ではないか。</li> </ul>

関連する地域団体・市民団体等（市民ヒアリングより）	<p>○<b>京都匠塾</b>: 工芸、ものづくり、職人が評価される社会を目指して、すそ野を広げていく取組を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良いものが売れるように消費者側へのアプローチを図っている。手仕事の良さ、100円ショップとは違う、人の手で作ったものを大事にする感覚を知ってほしい。</li> <li>・南丹市には個性あるプログラムを提供する団体も多い。10年間で市民の間には浸透してきている。NPOなど徐々に育ち、次の世代の団体も出てきつつある。</li> </ul> <p>○<b>南丹市商工会</b>: 商店街や個人商店への支援など、地域商業振興を担う団体。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗の新規開店など創業の支援に力を入れていく必要がある。</li> <li>・南丹市の商工でやっている軽トラ市を午前中にやって、午後はふれあいサロンと連携をしていったら、地域の課題解決が進められていくのではないのか。</li> <li>・商業と定住が連携した取組がない。</li> </ul> <p>○<b>京都銀行園部支店</b>: 企業のCSR活動を通じて地域貢献を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の経営者向けの勉強会なども開催。事業承継や事業拡大、海外進出を考える方、観光産業向けの講座。市民活動団体の経営面へのアドバイス講座なども可能。クラウドファンディングの募集、私募債などでの協力もできる。</li> <li>・農林水産、畜産、森林景観、スポーツ、教育、医療・福祉などが南丹市として産業の中心になると思われる。産业内のつなぎ、横断的な産業界間のネットワークづくりが必要。南丹市に住んで京都市内に通う人も多い。南丹市として核になる産業があればもっと活性化と思う。</li> <li>・地域の活性化に向けて、起業をしたい人を見つけることも重要。ただし起業にもさまざまな形がある。本格的に事業を行うもの、小さな店舗で活動するものなど、業種や方向性によってさまざまな形がある。</li> <li>・伝統工芸での会社や事業所の経営、こだわりの作り手と価値のわかる買い手をどうつなげるか、また一定規模のマーケットを確保できるかが重要。</li> </ul>
第1回ワーキングで出された意見（概要）	<p>●<b>南丹ブランドをめぐる課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹市が知られていない。南丹ブランドがそもそも必要なかどうか、考えること。</li> <li>・これからの方向性をしっかり考えることが必要。</li> </ul> <p>●<b>南丹市とは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな資源(森林・環境・田舎)、自然体験など。ものづくりのまち、工芸も重要。</li> <li>・何も無いことも売りになる。住民との温かなふれあいも重要。</li> <li>・京阪神への移動が便利。都市に近い利便性。意外と学生が多い。</li> <li>・マニアに好まれるようなスポットもある(歴史など)。</li> </ul> <p>●<b>南丹ブランドの確立に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットを絞った戦略が必要。統一的な基準が必要。</li> <li>・地元に住む者が地元の良さに気づいていない。</li> <li>・4町の特長はあるが横の連携がない。方向性もばらばら。</li> <li>・支所と本庁の在り方、観光協会がまとまっていないなどの課題もある。</li> </ul> <p>●<b>情報発信をどうするか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツイッター、フェイスブックをもっと活用する。グループのリーダーが必要。</li> <li>・面白さを出すように、ちょっとした面白い話題も載せる。</li> <li>・情報発信においては、4町のバランスが問われる。</li> </ul>
想定される課	農政課、地域振興課、商工観光課、各支所地域推進課など

## テーマ4: 体験交流型エコツーリズムプロジェクト(仮)

想定される施策	自然環境の保全、地球環境の保全、資源循環型社会の形成、観光の振興、商業の振興 農業・林業の振興、伝統文化の継承
テーマの背景・現状	○南丹市は、平成 22 年に「南丹市美山エコツーリズム推進協議会」が発足し、平成 26 年には全国で 6 番目、近畿地方では初のエコツーリズム推進全体構想が認定されるなど、エコツーリズムに力を入れている。 ○平成 27 年には、「全国エコツーリズム in 京都・美山」が開催された。 ○日本エコツーリズム協会によると、エコツーリズムには「地域の自然・歴史・文化資源の保護」「地域固有の資源を生かした観光の成立」「地域経済の活性化」という 3 つの目的がある。 ○観光客一人あたりの市内消費額は、京都市の約 1 万円に対し、南丹市は約 1000 円と 10 倍の差がある。 ○美山町を中心にエコツーリズムの取組が進められているが、美山町以外の地域資源をさらに活用し、発展させていくことが求められている。
論点	○市全域に広がる地域資源を連携・活用し、いかに回遊性を高めながら質の高いエコツアーを開発していくべきか？ ○ツアー体験の中に宿泊や買い物などの行動を取り込むなど、どう地域経済の活性化につなげていくか？
関連計画	南丹市美山エコツーリズム推進全体構想、南丹市景観計画など
担当課などの課題認識 (庁内ヒアリングより)	<p>●<b>地域資源を生かした回遊性の高いエコツアーなどの開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりを通じて南丹市に関わってもらっている、プロの芸家やものづくりを学びに来ている人の活用。</li> <li>・新たな国定公園の指定があり、今後京都府と連携して取組を進めていく。</li> <li>・京丹波町及び亀岡市とともに観光協議会事業(京都丹波観光協議会)を実施している。</li> <li>・市域の回遊にあたっては、乗り継ぎの改善が必要。インバウンドの方は日吉から乗り換えて美山のかやぶきの里までいったが、直通で行けるように変更した。</li> <li>・利き鮎グランプリ(清流めぐり利き鮎会)で 3 年連続準グランプリを受賞した。</li> <li>・八木地域の男前豆腐や雪印、寅屋などの工場がある。工場見学などで企業とコラボできないか。生産から加工、流通への一連の体験ができる。</li> <li>・氷室の郷では、バター作りなどの体験ができる。同施設を農村体験の拠点として再構築し、八木地域への観光入込客数を増やしていきたい。</li> <li>・文化財に関連する体験講座は、郷土資料館で年4回開催している。体験講座事業では大学の実習の受入れを行っている。学芸員実習としての位置づけ。</li> <li>・美山町には旅館・民宿は多く、20 軒程度あるが、場所は散在している。すべての施設を合わせても、収容人数は 400 人程度である。</li> <li>・芦生の森の散策やイノシシ・鹿の解体やジビエ料理など、今ある資源の活用を。観光スポットが点在しているので、スポットをつなげて回遊性を高めたい。</li> <li>・ガイドの質が重要なので、ガイドの養成に取り組みたい。</li> </ul> <p>●<b>地域活性化につながるツアー商品の構築に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹市の観光客の消費単価は 1000 円程度にすぎないが、京都市内は 1 万円以上。</li> <li>・消費単価を上げるためには宿泊してもらうことが重要。宿泊してもらえるようなエコツーリズムを開催したい。ターゲットは関西ではなく、全国を想定していきたい。</li> <li>・市内については、観光協会がひとつになりきれおらず、観光協会間の連携が不十分である。各観光協会は、会費や運営方法などがバラバラである。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域版 DMO が設立されたので、集客を生み出せる団体にしたていきたい。</li> <li>・道の駅美山ふれあい広場は、平成 28 年に住民サービス部門のモデルとして国の賞をもらった。行政関係施設に加え、福祉施設や住民サービス施設がある。また府の計画では芦生の森を知ってもらう施設(ビジターセンター)ができる予定である。</li> <li>・環境にやさしい農業を実施すると手間がかかるが、市の農業のアピールにつながる。</li> <li>・エコツーリズムの参加者は、環境への意識が高い人が全国から来ているのではないかと。</li> </ul>
関連する地域団体・市民団体等 (市民ヒアリングより)	<p>○<b>京都匠塾</b>: 工芸、ものづくり、職人が評価される社会を目指して、すそ野を広げていく取組を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良いものが売れるように消費者側へのアプローチを図っている。手仕事の良さ、100 円ショップとは違う、人の手で作ったものを大事にする感覚を知ってほしい。</li> </ul> <p>○<b>南丹市観光まちづくり実行委員会</b>: 南丹市の観光ネットワークの構築と新たな観光戦略に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車にのってみる景色がとてもよい。秋は畔の草刈りができていて、田舎の原風景が残っている。守っていききたい。美山の宿泊施設は数が少ない。交通アクセスも課題。</li> <li>・ビジターセンターや観光案内所を積極的取り組んでほしい。</li> </ul> <p>○<b>ウィーラースクールジャパン</b>: 自転車教育、自転車を活用した様々な取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹市の環境を生かし、車やバスより自転車への転換を。パークアンドサイクルや観光客の二次交通としての自転車利用、JRの列車に自転車が載せられるようにするなど。</li> </ul> <p>○<b>京都銀行園部支店</b>: 企業のCSR活動を通じて地域貢献を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ旧町の壁がありそう。観光など、海外の方が美山に行った帰路、園部や八木に立ち寄るなどできればよい。宿泊への流れなどもできれば。京都に来る海外からの観光客の取り込み、滞在・宿泊してもらうことを狙っていくのが良い。</li> <li>・海外からの旅行者、「体験」へのニーズは高い。欧米は茶道など、アジア系は着物など。南丹の特性を生かして、京野菜の収穫から日本食調理、陶芸などの伝統工芸の体験などができそう。</li> </ul>
第1回ワーキング で出された意見 (概要)	<p>●<b>南丹市の資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四季や自然、山林、温泉など。かやぶきの里、地域で暮らす人。</li> <li>・ジャココなど世界的な工場もある。</li> </ul> <p>●<b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特産品が少ない。観光客は多いが地域内での消費が少ない。</li> <li>・交通の便の悪さ。移動時間が多く、一つの体験にかかる時間が少なくなる。</li> <li>・地域資源についての情報発信が少ない。</li> </ul> <p>●<b>魅力的なコースづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコツーリズムといえばほぼ美山。他の地域との連携づくりを。</li> <li>・美山以外の地域は、エコ以外でアピールする点を作るのもありかもしれない。</li> <li>・行ってみたいと思う魅力的なコース設定(自然・産業・ものづくりなどのテーマ設定)。</li> </ul> <p>●<b>取組の方向性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家民泊以外の商品開発が必要。不便さを含めた、田舎体験ツアーなども。</li> <li>・山林など、枝打ち体験、草刈り体験も可能(担い手不足解消との連携)</li> <li>・南丹ならこれ、という名物を作ることができれば。</li> </ul>
想定される課	商工観光課、地域振興課、農政課、各支所地域推進課など

## テーマ5:健康寿命延伸プロジェクト(仮)

想定される施策	健康づくりの推進、地域福祉の推進、地域医療体制の充実、社会保障の充実、コミュニティ活動の活性化、協働のまちづくりの推進
テーマの背景・現状	<p>○急速に高齢化している南丹市では、介護保険料が府下で最も高くなっており、さらなる健康づくりや介護予防の取組が求められている。</p> <p>○地域ぐるみでの健康づくりの取組を通じて、生きがいづくりや世代間交流、コミュニティづくりにもつなげるなど、相乗効果を高めることが重要なポイントであると考えられる。</p> <p>○南丹市には、各種健康づくり・スポーツ団体のほか、明治国際医療大学や京都医療科学大学などとも連携しながら、どう地域に健康づくりの取組を広げていくかが求められている。</p> <p>○南丹市の豊かな農作物を通じた「食と健康」の視点も重要である。</p> <p>○南丹市は「日本健幸都市連合」に加盟し、「健幸都市」を目指している。</p>
論点	<p>○家庭・地域・職場ぐるみの健康づくりをどう進めていけばいいのか？また、コミュニティ活動やまちづくりにどうつなげていけばいいのか？</p> <p>○南丹市の多様な資源(大学や団体、豊かな農作物等)を生かして、南丹市らしい健康づくりの取組、食育の取組を確立するにはどうすればいいのか？</p>
関連計画	南丹市健康増進計画・食育推進計画、南丹市スポーツ振興計画、南丹市地域福祉計画など
担当課などの課題認識(庁内ヒアリングより)	<p><b>●家庭・地域・職場ぐるみの健康づくりに向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室については、より身近なところでの教室開催を増やしていくために、介護予防サポーター養成講座を開催する。サポーターによる地域での開催へと広げていく。</li> <li>・市域が広がったことで、旧町時代より参加者が減少。身近なところでの開催であれば参加しやすいが、遠方での開催の場合、参加を躊躇される方もみられる。</li> <li>・地域福祉については、共助の取組をいかに醸成していくかがカギである。</li> <li>・保健と医療の連携として、データヘルス計画を健康づくりの事業として取り組んでいく。介護予防など、他の課と連携して進めていく。</li> <li>・介護保険料は府内で一番高く、月額基準額が 6,645 円となっている。介護施設も多く、利用率も高いことが介護保険料の高額化につながっているのかもしれない。</li> <li>・合併前の旧町でそれぞれ実施していた高齢者福祉サービスを、南丹市でもおおむね引き継いでいるので、サービスはかなり充実しているほうである。</li> </ul> <p><b>●南丹市らしい健康づくりの取組に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治国際医療大学と包括協定を結んでいる。協定のもと、睡眠外来の協力を得て、睡眠講座を開催してきたが、今後見直しを図る。</li> <li>・大学との連携は、京都府立大学や佛教大学と連携しているが、学生がなかなか南丹市に来られないのが課題。マンパワーや交流という点からは学生にもっと来てほしい。</li> </ul> <p><b>●南丹市らしい食育の取組に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校での食育は、教育委員会が実施している。関係する部署としては、農政課、商工課、地域振興課、教育委員会、保健医療課などがあり、連携が必要。健康増進計画、食育推進計画などに関連。アウトプットよりアウトカムを重視する必要がある。</li> <li>・各学校の調理場は、地産地消を大事にしている。野菜などを作った人の顔が見えるように、招待してお礼の会を開いたりする学校もある。なるべく地域の食材を入れるようにしており、美山ではジビエで有名な鹿肉を取り入れている。美山、日吉は活発だが、八木、園部はあまり活発でないなど、旧町の違いによって取り組みに差がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所や幼稚園の給食において、南丹市産のお米や米粉を使った食品を使用している。また、美山町では美山牛乳を出している。</li> <li>・地元産野菜の活用を進めていきたいが、南丹市は京野菜の産地であり、日常づかいの野菜を大量に確保するのが難しい。</li> </ul>
関連する地域団体・市民団体等(市民ヒアリングより)	<p><b>○南丹市体育協会:</b> 地域総合型スポーツの振興を図る南丹市全域を対象とする団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ弱者、障がい者の参加拡大、30代～40代の勤労者の健康づくりの促進が必要。</li> </ul> <p><b>○南丹市福祉シルバー人材センター:</b> 高齢者への就労の機会の提供を進めている団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅福祉サービスなどにも人材を派遣。介護予防、外出の機会の提供にも取り組む。</li> </ul> <p><b>○南丹市老人クラブ連合会:</b> 各地域の老人クラブをとりまとめる団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化で、活動時には会員の送迎が問題。高齢化するとどうしても引きこもりがちになるので、家から出て交流してもらう仕掛けが大切である。</li> <li>・運動会は多くの人に参加するので、地域スポーツにもっと力を入れるべき。</li> </ul> <p><b>○おば給:</b> 楽しく作って食べて話して元気が基本構想。おしゃれをするように、食のことを真剣に考えてほしい。そのメッセージを伝えたくてはじめた団体。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢になると食事の制限が生まれるので、大人を対象にした食事・調理の講師をしている。料理をすること自体が認知症の予防になる。</li> <li>・移住者交流会経由で移住者が南丹市の料理をできるような活動をするのもいい。</li> </ul>
第1回ワーキングで出された意見(概要)	<p><b>●現状、課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が高い。老老介護の問題も。介護サービスそのものも不足している。</li> <li>・高齢者、若者ともに引きこもり防止。</li> <li>・介護、福祉サービスを受けられない方へのサポートが求められている。</li> </ul> <p><b>●引きこもり防止、活動的なくらしに向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢の方が集う、過ごす場所が少ない。サロンなど居場所が必要。</li> <li>・旧小学校を活用して、高齢者と子どもたちが集う場所にできないか。世代間交流。</li> <li>・子どもから高齢者まで、幅広く視野に入れた包括的支援体制が必要。</li> </ul> <p><b>●農業とやりがい、健康</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地を活用して、農業に関心を持つ方とマッチング。</li> <li>・子どもたちの農業体験などを、受入れ側の健康という視点から積極的に進める。</li> <li>・民泊なども、地域の高齢者の生きがいとして積極的に進める。</li> </ul> <p><b>●地域でやりがいを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の元小学校などの管理を担う。近所の関係づくりも重要。</li> <li>・身近な地元の高齢者福祉施設に入れるような環境づくり。</li> <li>・公的な介護サービスに代わる住民主体のサービス、地域で担うようにできないか。</li> </ul> <p><b>●食育に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新鮮な野菜がすぐ食卓に上る。伝統食、郷土色の普及に取り組んでいる方も。</li> </ul>
想定される課	保健医療課、高齢福祉課、社会福祉課、社会教育課など

## テーマ6:まちなか活性化プロジェクト(仮)

想定される施策	市街地の充実、商業の振興、協働のまちづくりの推進、コミュニティ活動の活性化
テーマの背景・現状	<p>○園部や八木地域の中心市街地で、地元商業が衰退傾向にある。</p> <p>○市外やネットでの購入など、消費行動が多様化する中で、いかに中心市街地の賑わいを取り戻すべきなのか。あるいは中心市街地のありかた自体も見直す必要があるのかもしれない。</p> <p>○例えば、商店街の空き店舗を活用した若者の起業の場づくりや、市民活動や趣味サークルなどを活用した新たな賑わいづくりなどを創出することができないかを検討することも重要である。</p>
論点	<p>○市民の消費行動が多様化する中で、中心市街地のあり方をどう考えるか？</p> <p>○立地の良さをいかし、中心市街地を市民の新たな活動の場、拠点としていくための方策は？</p>
関連計画	南丹市都市計画マスタープランなど
担当課などの課題認識（庁内ヒアリングより）	<p>●<b>中心市街地の活性化に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街は店舗と住居が一体になっていて、賃貸に出すお店もあるが、まだまだ数が少ない。店舗貸しをするほどにはお金に困っていないのではないかと。</li> <li>・お店を閉めても住み続けている人も多い。店主が住んでいるので貸せない現状がある。商店街が住宅街になっている。</li> <li>・園部駅や八木駅の駅前商店街でも同じ傾向である。店舗数は減少しているが、商店街組合はまだ残っている。</li> <li>・商店街の賑わい創出のため、マッチングの構築を目指したいが、ハードルが高い。</li> <li>・特に園部町の中心市街地を活性化させたい。カナモンヤカフェのあたりで軽トラ市の取組を月1回、5年程度実施しているが、お客さんが来る状況になっても商店街のお店は軽トラ市に出店しようとしな。商店街の意識の問題も少しはあるのではないかと。</li> <li>・駅前商店街については、後継ぎがいなくて商店街のお店をやめられるところがある。</li> <li>・店舗数が最盛期の半数以下となり、全国的にみても行政が商店街をつぶしたような結果しか残っていない。</li> <li>・空き家流動化事業は、貸出意向のない空き家を対象にした事業。貸出意向のないものの対策を考えていく施策を進める。家を人に売る、貸すのが恥ずかしいという価値観を、まちづくりの一環として協力してほしいと呼びかけることで変えていく。</li> </ul> <p>●<b>中心市街地を市民の新たな活動の場としていくために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市から活動単体に委託事業が多いわけではない。市民団体が継続して活動できるように中間支援センターが支援している。</li> <li>・地域定住促進拠点施設整備事業は、空き家を1階子育て、2階をゲストハウスというように多目的に使い人の流れをつくる。八木と園部の本町（商店街）で実施。転々とつくるのではなく、拠点を横に広げていくようにして展開。</li> </ul>
関連する地域団体・市民団体等（市民ヒアリングより）	<p>○<b>南丹市商工会</b>: 商店街や個人商店への支援など、地域商業振興を担う団体。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗の新規開店など創業の支援に力を入れていく必要がある。</li> <li>・南丹市の商工でやっている軽トラ市を午前中にやって、午後はふれあいサロンと連携をしていったら、地域の課題解決が進められていくのではないかと。</li> <li>・商業と定住が連携した取組がない。</li> </ul>

	<p>○<b>京都匠塾</b>: 工芸、ものづくり、職人が評価される社会を目指して、すそ野を広げていく取組を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹市には個性あるプログラムを提供する団体も多い。10年間で市民の間には浸透してきている。NPOなど徐々に育ち、次の世代の団体も出てきつつある。</li> </ul> <p>○<b>CocoCan</b>: コミュニティカフェの活動から始まり、商店街活性化に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者層がこの地域で生活していきたいと思える取り組みや魅力が必要。</li> <li>・南丹市は京都市内に通える地域なので、都市部にしかない若者が語り合える場を地元にもつくり、地元から市内へ通うような流れをつくりたい。地元の職をつくるなど、もう1つの選択肢を増やしたい。</li> <li>・小さな団体は組織運営の部分で困ることが多いので、デザインセンターが市民活動の運営面の相談に乗るなどの役割を担ってほしい。</li> <li>・市民活動が、小さなことでも若者の仕事づくりにつながるようにしたい。</li> </ul> <p>○<b>にぎわいコンソーシアム園部</b>: 南丹市の中心市街地活性化の取組の中で設立。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元出身で課題を主体的に担う人材がいな。地元の若者を引き付ける魅力が乏しい。課題を自分ごとにはできない地域的な体質、行政がやってくれるという意識もネック。</li> <li>・また団体の運営面では、活動する人の人件費の捻出などが予算的に難しい。稼ぐ事業をしていかなければいけないが、難しい。</li> <li>・空き家バンクの充実と広報、空き家を活用して起業する人への支援。</li> <li>・空き地（市有地）のディスカウント。高すぎて企業などが購入できず、結果未利用のままになっている。移住者などを引き入れるための住まいなどに活用を。</li> </ul> <p>○<b>京都銀行園部支店</b>: 企業のCSR活動を通じて地域貢献を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活性化に向けて、起業をしたい人を見つけることも重要。ただし起業にもさまざまな形がある。本格的に事業を行うもの、小さな店舗で活動するものなど、業種や方向性によってさまざまな形がある。</li> <li>・地域の商店街の活性化に向けては、まずは人が集まる仕組みを考えること。一つの業種だけでなく、間借りしてでも異なる業種がたくさんあるのが良い。そしてターゲットを明確にすること。それぞれイベントや興味のあることならば人は集まってきている。</li> </ul>
第1回ワーキングで出された意見（概要）	<p>●<b>中心市街地、まちなかをどう考えるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地に何を求めるか。4町それぞれでの考え方がある。</li> <li>・商店の減少、店主の高齢化。保守的になり、チャレンジしようという意欲がない。</li> <li>・後継者確保が難しい中、商店の活性化は難しい。</li> <li>・企業誘致しても通勤が多すぎて帰ってしまう。時間をつぶす場所がない。</li> <li>・飲み屋、飲食店がない。学生なども利用できるように。</li> </ul> <p>●<b>まちなか活性化で期待したいこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前など、託児所があればよい。</li> <li>・駅周辺の整備、交通インフラを生かした展開。</li> <li>・園部駅前に物産店、土産物屋などがあれば。</li> <li>・地域の高齢者が行きやすい場所、小さな拠点が必要。</li> <li>・元気な高齢者に活躍してもらおう。高齢者の生きがいづくりにもつながるように。</li> <li>・商店へのアプローチが必要。</li> </ul>
想定される課	都市計画課、商工観光課、地域振興課など

## テーマ7:コミュニティ活性化プロジェクト(仮)

想定される施策	地域福祉の推進、災害対策の充実、家庭や地域の教育力の向上、協働のまちづくりの推進、コミュニティ活動の活性化
テーマの背景・現状	<p>○防災や地域福祉、地域自治を進める上で、自治会や消防団などの地域コミュニティは重要な役割を担っている。しかし、人口減少や価値観の多様化等により、地域のつながりが希薄化してきている。</p> <p>○一方、人口1万人当たりのNPO法人数が京都市に次いで多いなど、テーマコミュニティの活動は活発化している。</p> <p>○市民ヒアリングなどで、美山町や日吉町の一部で活動する地域振興会を評価する意見が聞かれた。南丹市全体に広げることについて、審議会や庁内ヒアリングなどでは、美山町・日吉町と園部町・八木町では地域性が違うので、難しいのではという意見が聞かれた。</p> <p>○島根県雲南市や三重県伊賀市などを中心に小規模多機能自治の取り組みが全国的に注目されている。市民ヒアリングでは、今後南丹市でも小規模多機能自治の取組を進めるべきだという意見が聞かれた。</p>
論点	<p>○地域コミュニティをいかに維持・充実させていくか？(自治会の加入率をアップさせるための方法など?)</p> <p>○地域コミュニティとNPOや市民活動団体などのテーマコミュニティが連携することで、相乗効果のある取り組みができないか?</p> <p>○美山町や日吉町の一部で活動する地域振興会のような組織を、南丹市全域に広げていくべきかどうか?また小規模多機能自治のような取組を南丹市でも採用するべきかどうか?</p>
関連計画	
担当課などの課題認識(庁内ヒアリングより)	<p>●<b>地域コミュニティをいかに維持・充実に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治振興補助事業と地域活性化支援事業は今後継続する。</li> <li>・市民によって温度差がある。活動的な人、全く地域の課題解決に興味のない人もいる。</li> <li>・南丹の良さを守り伝えていくことが大事。今の中・高校生の南丹市への思いは変わりつつあるのではない。誇りや愛着がある子が増えている。</li> <li>・Uターン者だけでなく、Iターン者も増やすべき。南丹市に定住してきたIターン者の力を最近感じている。・コミュニティセンターは、地域住民目線での地域づくりを進めていく拠点としての役割も求められている。館長は南丹市の嘱託職員。権限が少なく、正規職員の配置を求める声も高い。ただし公民館事業のように地域の相談に乗れる人を配置することも重要。</li> </ul> <p>●<b>地域コミュニティとNPOや市民活動団体などの連携に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹市は旧美山町時代から佛教大学と包括的連携協定を結んでいて、大学連携の実践の場として「美山町産官学公連携協議会」がある。協議会は平成19年に発足された。</li> </ul> <p>●<b>地域振興会のような組織、小規模多機能自治のような取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政にやってもらう姿勢ではなく、地域でどうするかを地域自らが考えてもらうことが大事。行政をうまく使える地域が勝ちだと認識している。</li> <li>・地域でも意識の差があり、格差が広がっている。合併して10年だが、まだ合併しきれていないところがある。</li> <li>・地域によって、共助意識や活動の土壌に温度差がある。美山町については、地域によって振興会活動に温度差がある。八木町や園部町は地域福祉活動が弱い。</li> <li>・園部町について、自治会加入率は地域によってまちまちである。</li> </ul>

関連する地域団体・市民団体等(市民ヒアリングより)	<p>○<b>世木地域振興会</b>:世木地域の各集落の強みを生かし、弱みを補い合いながら集落を維持・発展させていくことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹市の集落支援員の強力なバックアップにより事業を展開することができている。市の正職員ももっと積極的に地域に入り、問題点等を把握してほしい。</li> </ul> <p>○<b>南丹市女性会</b>:各地域の女性会をとりまとめる団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ型に集まる団体が増えており、女性会のような地域で集まる形に参加する人が減っている。コミュニティ意識が希薄になっているように思われる。</li> </ul> <p>○<b>南丹市社会福祉協議会</b>:南丹市のさまざまな社会福祉サービスを提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の存続が危うい地域を支援するには、集落支援員や地域おこし協力隊委員をはじめ、各地域の組織との連携を強化することが重要である。</li> <li>・少子高齢化の進行で、地域の存続が課題となった集落の支援として、小学校区単位での地域の組織づくりが果たす役割は大きい。付与する業務によっては、行政の負担の軽減を図れるとともに、地域住民の身近な行政への窓口として、さらには困ったときの相談や居場所等の効果が考えられる。</li> </ul> <p>○<b>鶴ヶ岡振興会</b>:農地を自分たちで守り維持していくことをサポートする地域出身者の店経営、購買農事福祉の施設を運営。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てなど魅力的な取り組みをしてほしい。大学生もいるのだから、卒業した後地域の中で活躍してくれる人になってもらえるような取り組みをしてほしい。</li> </ul> <p>○<b>南丹市消防団</b>:地域住民の生命・財産を火災・災害から守ることを目的。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代が少ないのが課題。団員数が減っても守る地域は変わらないので、一人ひとりへの負担は増加。団員の多くが仕事で地域外に出るようになり、昼間人口(昼間の団員数)が少なくなっている。</li> </ul> <p>(<b>その他団体のコメント</b>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の組織運営、事務的な機能と決定権のある長を分けるべき。小規模多機能型の地域に向けて、地区ごとに予算を配分し、何をするか自分たちで優先順位を決めるように。</li> <li>・地域団体とNPOとの連携など、今一つ進んでいない。</li> </ul>
第1回ワーキングで出された意見(概要)	<p>●<b>地域コミュニティの活性化における課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の高齢化とともに、若者の参加が少ない。</li> <li>・役員の負担が大きい。役を嫌がる人が多く、担い手がない。人材不足</li> <li>・地域での移動手段の確保が難しい。</li> </ul> <p>●<b>今後の方向性</b></p> <p>「地域の絆を深めていくこと」「暮らしと地域のつながりを深めていくこと」</p> <p>「地域の特色などをPR(地域内、地域外)」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うまくいっているところは、人材がいる(Uターンなど)、若い人から意見を出せる。</li> <li>・若い世代の参加を促すこと。「昔は・・・」「今どきの若者は・・・」は言わないように。</li> <li>・若い世代の参加意識を高めること。子どもたちに郷土愛を持ってもらうこと。</li> </ul> <p>●<b>留意点(行政の施策として)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をどう活性化するか、目的設定と担当を明確にすることが重要。</li> <li>・活動の拠点を確保すること。ちょっと立ち寄れる拠点づくり。</li> <li>・支援の年数を区切ることも必要。</li> <li>・人材を地域につなぐ「なんたん人材バンク」。</li> </ul>
想定される課	地域振興課、社会福祉課、社会教育課など